

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 29 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530974

研究課題名（和文） 日本語を活用した体験型小学校英語活動教員研修プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of Japanese Activities for In-service Teacher Training for Foreign Language Activities

研究代表者

猪井 新一（INOI Shinichi）

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：80254887

研究成果の概要（和文）：小学校外国語活動の教員研修用として、英語以外の言語、主として日本語を用いた言語活動を 15 例開発した。複合語を利用した活動 3 例、あいまい文活動、数字ことば活動、回文活動、日本語の教え方活動、各々 1 例、外来語活動 2 例、漢字活動 6 例である。このうち 8 例を、茨城大学教員免許状更新講習会で実際に実施し、受講者にアンケートにより評価をしていただいた。日本語活動例は英語活動例に対する評価ほどは高くなかったものの、母語への気づきを促す上で有意義と思われる。

研究成果の概要（英文）：This study developed 15 non-English activities for in-service teacher training for Foreign Language Activities. The activities include three compound word activities, one ambiguous sentence activity, one number activity, one palindrome activity, one counting activity, two loan word activities, and six Chinese character activities. Eight of them were actually implemented in the in-service teaching certificate renewal program at Ibaraki University. Participants' evaluations of the non-English activities were not so high as those of English activities. Still the non-English activities are useful in promoting one's awareness of the mother tongue.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：小学校外国語活動 教員研修 コミュニケーション 母語への気づき

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年の小学校学習指導要領の改訂により、平成 23 年度から正式に小学校 5、6 年生を対象に年間 35 時間の外国語活動が必修化された。これにより、各小学校はどのような年間指導計画を立て、どのように外国語活動を実施していくのかが、喫緊

の課題となった。平成 20 年度の時点では、どのように外国語活動を行うかは、各市町村、各学校の判断に委ねられていた。平成 23 年度からの小学校外国語活動を実施する上での最大の問題点は「指導者」であると考えられる。英語担当教員を中心に大変熱心に外国語活動を実施している小学校があるのは

事実だが、一方、年間指導計画の立案および外国語活動の実施をほぼ全て、外国語指導助手(ALT)や地域ボランティアに依存している小学校もある。総じて、外国語活動にあまり関与していない学級担任が相当数いることは否定できない。平成 23 年度からは学級担任が主となって外国語活動を実施する必要がある。そこで、本研究は小学校学級担任が平成 23 年度から主体的に週一回の外国語活動に取り組むことのできるような小学校外国語活動教員研修プログラムを開発することを目的としている。

一方、平成 21 年度からは教員免許状更新講習会が各地の大学で実施されることになり、本学は教員養成学部を抱え、当然その任を負うことになった。本学における免許更新講習会に「小学校英語」の講座が設けられたのは、平成 23 年度からの小学校における外国語活動の必修化に対応するためであった。本研究はその教員免許状更新講習会の「小学校英語」講座を活用しながら、学級担任が主体的に外国語活動に取り組むことができるような教員研修プログラムを開発するものである。今日、小学校教員、大学教員ともに様々な業務に追われていることを考慮すると、小学校外国語活動のための教員研修と教員免許状更新講習会を抱き合わせることは、仕事の効率化を図る上で有意義と考えられる。

小学校における外国語活動を実施する際に、学級担任の研修が極めて重要であると判断した理由は以下の通りである。教員免許状更新講習会の講座内容を検討するために、茨城大学周辺の現職の小学校教員 10 数名に簡単なアンケート予備調査を行った。外国語活動を実施する上での不安要素を挙げてもらったところ、自分の英語の発音、クラスルーム・イングリッシュ等「英語力」そのものに関するもの、年間指導計画・学習指導案等、外国語活動指導に関するものが圧倒的であった。言い換えれば、外国語活動を主体的に実施することに自信がない小学校教員が多数いるのである。それを裏付けるものとして、外国語活動を実施する上で学級担任は「主指導的役割を担うのではなく、ALT 等のサポート役が望ましい」とするアンケート調査結果がかなり多かった。平成 23 年度からの週一回の外国語活動実施のためには、どうしても学級担任が主指導的役割を担うことが必要であり、それを支援するような教員研修プログラムが必須である。

全国各地で行われている小学校外国語活動の研究報告によると、学級担任が外国語活動の楽しさ・重要性を自らが体験し、その意義を理解することが外国語活動の

成否に大きく関わっているのである。現在、外国語活動のための多くの指導案例・教材が容易に入手できるにも関わらず、多くの小学校教員が主体的に外国語活動を取り組まないのは、教員自らが外国語活動を体験していないので、その意義を見出していないことも大きな要因と考えられる。小学校教員が外国語活動の意義を理解するためにも、教員自らが外国語活動を体験するための体験型小学校英語活動教員研修プログラムは必須である。

しかし、小学校外国語活動の教員研修会プログラムを作成する際に、従来型の英語のみに偏ったプログラムは受講生に相当な心理的負担をかけることが危惧される。上述のアンケート予備調査からも複数の小学校教員が「英語嫌い」「英語に自信がない」と述べている。これらの不安は英語そのものに対する不安である。従って、英語のみを扱った教員研修により、小学校教員の英語に対する不安を容易に克服できるとは考えられない。そこで、本研究では、新学習指導要領にも述べられているように日本語・英語も含めて広く「ことば」の面白さ・豊かさに興味関心を持たせることも外国語活動の一部であると考えられる。外国語活動を広く言語活動として捉え、研修プログラムの中に小学校教員の母語である日本語そのものを言語活動対象として取り込み、日本語の仕組み、日本語と英語の違い、広く「ことば」の面白さや豊かさ等に気づかせることができれば、小学校教員の英語および外国語活動に対する心理的負担を少しでも軽減することができると思われる。本研究では、母語である日本語も利用することで英語だけに偏らない小学校外国語活動のための体験型教員研修プログラムを開発することを考えた。

2. 研究の目的

本研究では、小学校教員にアンケート調査を実施し、外国語活動に対する不安・要望等に関するニーズ分析をし、小学校教員が外国語活動を体験することが楽しいと思えるような体験型英語活動教員研修プログラムを開発することである。プログラム内容は英語に限定せず、日本語も含め広く「ことば」を扱うことにする。そのプログラムは毎年実施される教員免許状更新講習会等の中で実施し、受講者からフィードバックを得ながら改善を加えていく。

3. 研究の方法

茨城県内の小学校にアンケート調査を実施し、小学校教員の外国語活動への不安・要望等に関する実態(ニーズ)調査を実施する(事前アンケート調査)。その分析に基づき外国語活動を体験ができるような教員研修プ

プログラムを作成する。茨城大学での教員免許状更新講習会において、本研究で開発した言語活動例を実施し、受講生からアンケート調査等によりそのプログラムの良かった点・改善すべき点等に関しフィードバックを得る(事後アンケート調査)。そのフィードバックの分析をし、それに基づき翌年へ向けて外国語活動研修プログラムの内容を修正する。

4. 研究成果

(1) 事前アンケート調査結果

平成21年6月～7月に実施した事前アンケート調査(回答者168人)を分析すると以下のようなことがわかった。

- ① 回答者の8割以上が海外渡航経験を有しており、外国語をコミュニケーションの手段として多少なりとも使用した経験を有している。
- ② 回答者の約1/4は外国語活動が未経験であるが、この未経験者のうち半数以上が、養護教諭および特別支援学級担当者である。通常の1学年～6学年担当者の8割以上は英語活動の経験を有している。
- ③ 外国語活動はほぼTTの指導形態で実施されている。
- ④ TTにおいて、学級担任の半数近くが主指導的立場に立っている。
- ⑤ 回答者の約6割が外国語活動に対し、負担を感じている。その理由は「自分の英語力」「準備に関するもの」がほとんどであった。
- ⑥ 外国語活動に対し負担を感じていない理由として、「英語活動の楽しさ」である。指導者が楽しい場合と児童が楽しい場合があるが、相乗効果があると思われる。
- ⑦ 回答者の約半数は英語が好きである。嫌いと報告したのは、2割弱である。嫌いな理由の主なものは、「英語に対する苦手意識」である。英語が好きな理由の主なものは、英語活動や外国人とのコミュニケーションが楽しいというものである。
- ⑧ 外国語活動に対する不安要素の主なものは、「自分の英語力」、「教材の開発・準備」、「実際の英語活動の進め方」、「年間指導計画・授業指導案作成」である。その中でも、特に英語力に不安を感じている。
- ⑨ 教員研修において、望む主な研修内容は、「英会話、クラスルーム・イングリッシュ」「すぐ使える教材や英語活動実践例」「ALTと打ち合わせができる英語力」「英語の発音・リズム」であり、明日の授業ですぐに使うことができ

るものを望んでいる。

- ⑩ 小学校英語活動に対する自由記述で多かったものは、指導方法や指導者の英語力についてのものである。
- ⑪ 海外渡航期間の長短と外国語活動担当の有無に関しては、相関関係は見られなかった。
- ⑫ 海外渡航期間の長短とTTにおける立場に関しては、渡航経験の長い人の方がTTにおいて主指導になる傾向が見られた。
- ⑬ 海外渡航期間の長い人は、渡航期間が短い人と比べると、外国語活動が負担でないという回答する割合が高かった。
- ⑭ 海外渡航期間の長短と英語の好き嫌いには相関関係が見られ、渡航期間が長い人は英語が好きである傾向が見られた。
- ⑮ 英語の好き嫌いの度合いと、外国語活動負担感の度合いにも、相関関係が見られた。英語が好きな人ほど、負担感の度合いは低くなる傾向にあった。とは言え、英語が好きな人でも、約半数は外国語活動に負担感を感じていた。

(2) 外国語活動教員研修への提言

事前アンケート調査結果に基づいて、外国語活動の教員研修に関して以下のような提言をしたい。

- ① 海外渡航期間が長い人はそれだけ外国語(英語)をコミュニケーションの手段として使用する体験をしていると考えられる。従って、小学校教員の海外渡航を奨励し、そのための勤務上、財政上の教育行政的支援が有効である。
- ② 海外渡航して体験するように、教員自身が英語をコミュニケーションすることの楽しさを体験することができるような「体験型教員研修」が必要である。
- ③ 多くの小学校教員は自分の英語力に対しとても不安感を抱いている。教員研修は、その不安感を少しでも減らすような配慮が必要である。日本語活動などは、その一例である。

(3) 日本語活動

本研究で開発した英語以外の言語を利用した活動例および展開の仕方を記述する。なお、児童の興味関心や学習の進捗状況に応じて、適宜修正を加える必要がある。

① 複合語の語順を利用した活動

次のような日本語が書いてあるカードを、班の数分準備をする。**放送** **衛星** **蜜** **峰** **通学** **バス** **学校** **バナナ**。班で話し合っ、カードを組み合わせるにより、どれだけ多くの意味の異なる表現を作ることができるかを指示する。同じカードは何度でも使ってもよいとする。

② 複語の分類活動

次のような「時計」に関する表現を班の数分準備をし、「～」と「時計」の関係に基づいて分類するように指示をする。

腕時計 砂時計 柱時計 日時計
水時計 目覚まし時計。同様に、「袋」に関する以下のような複合語を用いて分類活動をおこなう。浮き袋 紙袋
ごみ袋 ビニール袋 ポリ袋 レジ袋
手袋 米袋

③ 複合語を長くする活動

次の例題にならって、単語を追加しながら、どれだけ長い表現を作ることができるか、指示をする。追加する単語は、前後あるいは途中で追加してよいとする。

例。自動車→自動車工場→電気自動車工場→電気自動車工場見学→電気自動車工場見学プログラム→電気自動車工場見学プログラム印刷（下線部が追加された単語）学校→

④ あいまい文活動

次の表現は複数の意味があるが、班内で相談し合って、それを見つけるように指示をする。

- ・おいしいじゃないか。
- ・わたしはだあれ。
- ・あくまのにんぎょう。
- ・5人の男の子と女の子
- ・太郎が好きな少女があそこに立っている。
- ・社長さんが秘書をさがしている。
- ・人が嫌がることをするおばあさん。
- ・魚屋さんに買い物に来た幼い子供とお母さん。子供が店頭の切り身の魚にさわろうとすると、お母さんが「きかないからさわっちゃだめ。」

⑤ 数字ことば活動

次のような例を用いて、数字でことばを表現できることを示す。例。39(サンキュー) 3月17日(みんな いいな)。数字を用いて、次の記念日を作るとしたら、何月何日にするか、話し合う。野球の日()、富士山の日()、パイナップルの日()。自分あるいは家族の誕生日、家の電話番号、車のナンバープレートなどの数字を何と読ませませるか、各自考える。

⑥ 回文作成活動

回文とは「新聞紙(しんぶんし)」のように左から読んでも右から読んでも(上から読んでも下から読んでも)同じにな

る「さかさことば」である。以下の文字を並び替え、回文を作成する。

- ・い、ま、め、ま、い「今、めまい」
- ・よ、い、し、ら、せ、ら、し、い、よ「良い知らせらしいよ」

⑦ 外来語活動 (1)

班ごとに国語辞典、新聞記事、雑誌記事あるいは広告記事等を準備する。記事の中から、興味あるカタカナの外来語を見つけ、国語辞典を用いその語源を調べる。カタカナを使わないでその語を表現するとすれば、どのような漢字の表現となるかを各自考える。例を参考とする。

例。(トタン)。(ポルトガル語 tutanaga= 亜鉛の変化したもの) (薄亜鉛板)

⑧ 外来語活動 (2)

日本語が語源である、英語の単語を ALT に発音してもらい、それが何の日本語であるか、皆で言い当てる。

karate(空手)karaoke(カラオケ) sake(酒)
issei(一世) rikisha(人力車)
hibachi(ひばち)honcho(班長)

⑨ 日本語の数の数え方

次のそれぞれの数の数え方を読み方により3つに分類させる。

1本、2本、3本、4本、5本、6本、7本、
8本、9本、10本

3つに分類したら、それぞれどのような特徴があるかを、班で話し合わせる。

読み方の分類

1本6本8本10本(「ぼん」と読む)
2本4本5本7本9本(「ほん」と読む)
3本(「ぼん」と読む)

⑩ 漢字活動(1)(海の生き物漢字)

「海」という漢字に、与えられた漢字(月 老 苔 豹 豚 星 栗 象 狸 女)の中から1文字加えて語をつくり、読み方を考えさせる。次に、これらの動物や人物の絵が描かれている用紙を班ごとに配布し、教師が言う英語を聞いて(jellyfish, shrimp, seal, dolphin, starfish, sea urchin, walrus, beaver, woman diver)、漢字カードを動物(人物)の絵のところへ置いていく。漢字表現の由来については、「総合的な学習の時間」等の中で語源辞典やインターネットで調べる。

⑪ 漢字活動(2)(漢字の偏と旁を結び合わせる活動)

「魚」偏に次ような旁(隹 書 囗 囟 園)を結び付けることで、どんな漢字が出来るか、班ごとに話し合う。次にそれぞれ魚の絵をパワーポイント等隠しておき、

少しずつ見せながら、何の魚であるか、当てさせる。鮭、鯖、鮪、鰯、鯨の漢字を確認したら、教師が次のような英語を言って聞かせて、何の魚であるか当てさせる。salmon(鮭)、mackerel(鯖)、tuna(鮪)、sardine(鰯)、whale(鯨)。英単語が難しい場合は、カタカナになっている語(サーモン、ツナ、ホウエール)にとどめてよい。

⑫ 漢字活動(3)(創作漢字)

新しく漢字を作ってみようという活動である。例えば、「苦豆」と書いて「コーヒー」と読ませるような活動である。

⑬ 漢字の活動(4)(中国語外来語活動)

これは中国語の外来語を扱った活動例であるため、厳密には日本語活動ではない。しかし、中国語の外来語表記を、日本語の外来語のカタカナ表記と関連させている点で、日本語活動として扱っている。中国語では外来語を表現する場合に、発音を中心に漢字を当てはめる場合と、意味を中心に漢字を当てはめる場合があることを説明する。以下の中国語はすべて外来語で、日本語ではカタカナで表現されるが、どのようなカタカナになるか、班で話し合わせる。ヒントとして、発音中心の外来語は実際に音読させてみる。意味中心の外来語は、意味を考えさせる。さらに、[発音中心]の外来語の場合、「公共の乗り物」や「飲み物」のようなヒントを与える。

[発音中心] 的士(タクシー) 巴士(バス) 可口可乐(コカコーラ) 芬达(ファンタ)

[意味中心] 速溶咖啡(インスタントコーヒー) 空姐(スチュワーデス) 国際将棋(チェス) 遊泳池(プール) 蒸気浴(サウナ)

可能であれば、インターネット等を利用し、それぞれの中国語の外来語が使用されている画像を示すことで、実際に使用されている外来語を確認する。

⑭ 漢字の活動(5)(中国語と日本語の漢字の形式の違い)

日本の漢字と中国の漢字を、形式の観点からを比較する活動である。次の漢字は中国語で使用されているが、どんな日本語の漢字に対応するか班ごとに話し合わせる。ヒントとして、日本語の漢字にその形が似ていることを言う。

德 飞

「飞」は日本語の漢字「飛」を簡略化したものであると、確認したら、次の漢字

2 文字は何を表わしているかを話し合わせる。ヒントとして、中国語の「机」は日本語の「機」相当することを教える。

飞机 手机

「飞机」と「手机」を指しているものを、画像で確認する。次の中国語の漢字についても、日本語の表現を考えさせる。出来るだけ、インターネット等で画像を確認する。

火車(火车) 電影(电影)

日本語ではそれぞれ、汽車、映画となる。中国語の漢字には繁体字と簡略字があることを説明する。繁体字は主に、香港、台湾で使用され、簡略字は中国本土およびシンガポールで使用される事を追加説明する。なぜ、2つの字体があるかについては、総合的な学習の時間等を利用し、調べ学習をさせることは可能である。

⑮ 漢字の活動(6)(中国語と日本語の漢字の意味の違い)

同じ漢字でも、中国語と日本語では異なる意味になることに着目する。次の漢字は中国語でも使われているが、日本語と違う意味である。どんな意味かを班ごとに話し合わせる。

「娘」「汽車」「走」「手紙」

次のようなヒントを与える。「娘」は、女性の人を指す。「汽車」は、車の一種である。「走」は、足の動きを表わす。「手紙」は、「手」と「紙」はそれぞれ日本語と中国語では同じ意味である。解答例を示す。「娘」= 母親、「汽車」= 自動車、「走」= 歩く、「手紙」= トイレトペーパー。

(4) 教員研修における日本語活動の評価

本研究において開発した15の日本語活動例のうち8例を、茨城大学における教員免許状更新講習会で実際に実施し、受講者にアンケートにより評価をしていただいた。更新講習会において1講座あたり3時間の時間設定があり、小学校外国語活動の講習会の内容は外国語活動に関する講義と英語活動が中心であるため、日本語活動は1回の講座の中で原則1つ程度実施した。講座内容の評価の全体像が見えるように、日本語活動のみならず、英語活動や講義についてのアンケート評価結果も示すことにする。

表1は平成21年度～平成23年度において、講座の中で行われたいろいろな講習内容に対する受講生からの5段階によるアンケート評価の平均値である。平均値が5に近づけば近づくほど、受講生のその活動に対する評価、言い換えれば、満足度が高いということになる。1)は講義、2)～7)は英語活動、8)～15)は日本語活動である。

表 1. 教員研修プログラム内容の平均値

プログラム内容	平均値
1) 外国語活動講義	4.7
2) キーボード	4.5
3) 恐怖の 13	4.6
4) 数字ピラミッド	4.7
5) 外来語・動物の名前導入	4.7
6) キーワード	4.6
7) What am I?	4.8
8) 海の生き物漢字	4.3
9) 複合語の語順活動	3.9
10) 複合語の分類活動	4.1
11) 複合語を長くする活動	4.3
12) 日本語の数の数え方	4.6
13) 数字言葉遊び	4.1
14) 創作漢字	3.8
15) 中国語外来語活動	4.1

受講生の満足度が9割に達していることを示す値 4.5(5点×0.9)を一つの基準値とする。その基準値以上のものは 1)から 7)までの研修内容である。英語以外の活動において、この基準値を超えていたのは 12)「日本語の数の数え方」だけである。一方、残りの日本語活動はいずれもこの基準値を下回っていた。とは言え、4 点前後の評点をいただいた。この数値は満足度が 8 割に達していることを示している。

日本語活動例へのアンケート評価は、英語活動例に対する評価ほどは高くなかったものの、外国語活動は、外国語を通して国語を含めて広く言ことばへの関心や興味を持たせることや、国語教育に資することもその導入目的の一つであるから、今後とも教員研修会の中に、日本語と英語を関連付けながら、母語への気づきを促すような日本語活動を取り入れることは有意義と思われる。

今後の課題としては、いかに日本語活動をより満足度の高いものにしていくかである。母語への気づきを促すためには、日本語活動はどうしても必要である。日本語活動は英語活動だけでは達成することができない部分を補う役割をもっている。日本語活動をより満足度の高いものにする方法として、カタカナ英語、和製英語、外来語等を通して、日本語と英語を結びつけることが考えられる。さらには、日本語の中でも、普段無意識となっている側面に焦点を当て、それを意識化するような活動である。その意味では、もっと国語教育と外国語活動の連携が必要と思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 猪井新一、「茨城大学教員免許状更新講習における小学校外国語活動講座の実践報告」、『茨城大学教育実践研究 30 号』、査読無、2011、pp.123-135.
<http://hdl.handle.net/10109/2555>
- ② 猪井新一・竝木崇康・斎藤英敏、「日本語を活用した小学校外国語活動教員研修」、『茨城大学教育学部紀要(教育科学) 60 号』、査読無、2011、pp. 97-109.
<http://ir.lib.ibaraki.ac.jp/handle/10109/2555>
- ③ 猪井新一、「外国語活動における小学校教員の負担感および英語の好き嫌い」、『東北英語教育学会紀要第 30 号』、査読有、2010、pp. 45-54.

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 猪井新一、「日本語を利用した小学校外国語活動」、第 37 回全国英語教育学会山形研究大会、平成 23 年 8 月 21 日、山形大学(山形県)
- ② 猪井新一、「漢字を利用した小学校外国語活動」、関東甲信越英語教育学会第 35 回神奈川研究大会、平成 23 年 8 月 6 日専修大学生田キャンパス(神奈川県)
- ③ 猪井新一、“The Use of Asian Writing Systems as Teaching Material for Upper Primary Graders,” The 46th RELC International Seminar、平成 23 年 4 月 20 日、SEAMEO Regional Language Centre(シンガポール共和国シンガポール市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

猪井 新一 (INOI SHINICHI)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：80254887

(2) 研究分担者

竝木 崇康 (NAMIKI TAKAYASU)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：90106470

斎藤 英敏 (SAITO HIDETOSHI)
茨城大学・教育学部・准教授
研究者番号：20318695